

岐阜県博物館

友の会報

岐阜県博物館友の会

〒501-3941 関市小畷名1989

岐阜県博物館内

T E L (0575) 28-3111 (内線331)

F A X (0575) 28-3110

印刷 株式会社 岐阜芸社

あたらしく

岐阜県博物館 館長 高橋一雅



雨に濡れた木々の緑も深みを増し、夏を感じる季節となりました。

岐阜県博物館友の会の皆さまには、日頃から当館の運営に格別のお力添えを賜り、厚くお礼申し上げます。

この4月、館長を拝命しました高橋と申します。これまで長きにわたり受け継がれてきた博物館の伝統を大切にしつつ、新たな取組にもチャレンジしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

さて、当館は今年、開館50周年を迎えました。この間、ご来館いただいた皆さま、そして当館の運営にご協力いただいた皆さまに、心から感謝申し上げます。

去る5月5日には、50周年を記念して開催した「特別講演会」の冒頭で、これまで特に長きにわたって当館を支えていただいた、岐阜県博物館友の会及び岐阜県博物館サポーターの方に感謝状を贈呈するとともに、数々の懐かしい写真を見ながら、50年の歩みを振り返ったところです。

今年度は、この節目の年にふさわしい魅力的な事業を展開していきたいと考えています。

まず、4月24日から開催している特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」では、刀剣ファンからの評価も高い徳川美術館との初の共同企画として、これ

まで公開機会が稀であった「美濃刀」を一堂で紹介しています。

また、9月には、特別展「Minerals―永遠の美―」を開催します。岐阜県内、国内外で産出した色彩豊かな「鉱物」や不思議な形の「奇石」、岐阜県内に落下した「隕石」などを存分に紹介したいと考えています。

さらに、年明け1月には、企画展「けんばく推しセレクトション」を開催します。開館以降、当館が収蔵してきた数ある収蔵品の中から、皆さまに関心を持っていただけるような、学芸員「いち推し」の資料を、選りすぐって紹介したいと考えています。

こうした展示会に加え、今年度から「岐阜神岡恐竜溪谷プロジェクト」を始動いたします。

恐竜の化石は、当館のキラーコンテンツであるにも関わらず、現在、当館に収蔵している県内の恐竜化石は、歯

化石5点のみです。こうした中、令和6年度、飛騨市神岡地区において、福井県立恐竜博物館、福井県立大学との共同研究により、白亜紀ワニ形類の歯化石を発見しました。

こうした化石は、大型恐竜の骨格化石とともに発掘されることが多く、福井県の恐竜化石発掘のきっかけも同じワニ形類の歯化石でした。このため、当館では、地元飛騨市と連携し、「岐阜県初」となる恐竜の骨格化石の発掘を目指して取り組んでまいります。

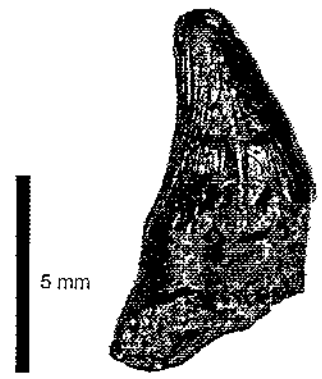
このほか、今年度も、県民の皆さんのコレクションや作品を展示する「マイミュージアムギャラリー」を開催します。4月11日から開催した「鉄道コレクション」、5月30日から開催している「写真展ぎふたび」以降も、「石棒」「漫画」「地歌舞伎」「魚の刺製」「エクセルアート」といった、多様なラインナップが続きます。

今後も、より多くの皆さまに楽しんでいただける企画を考えていきたいと思ひます。友の会の皆さまには、引き続き、暖かいご支援を賜りますとともに、当館の運営に関して忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



尾張徳川家ゆかりの美濃刀

▲開館50周年記念特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」



▲飛騨市神岡地区で見つかった白亜紀ワニ形類の歯化石

「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」のご案内

岐阜県博物館 学芸部 南本 有紀

岐阜県博物館では、今年、開館50周年を迎えるに当たり、これを記念して特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」を開催いたします。

博物館は、お陰様で、昭和51年(1976年)5月5日の開館から、今年で50周年を迎えました。これを記念して行われる本展は、博物館が、近年、特に展示の柱として力を入れている刀剣の大規模展で、概要は以下のとおりです。

会期 2026年4月24日(金)～6月28日(日)

休館日 毎週月曜日 ただし、5月4日(月祝)は開館し、5月7日(木)を振替休館

時間 9:00～16:30(ただし、入館は16:00まで)

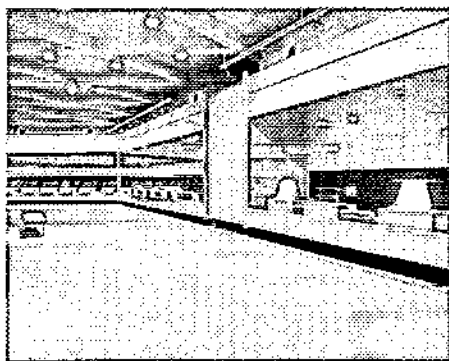
入館料 一般800円、大学生400円、高校生以下無料(友の会会員は無料)

本展は、尾張徳川家ゆかりの大名道具等の優れた武家文化コレクションを有する徳川美術館に、初めてご協力をいただき開催いたします。

徳川美術館の収蔵刀剣のうち、名刀の陰に隠れて、公開の機会を逸してきた、美濃・尾張の刀剣44点を一挙展示します。初公開が12点あり、そのほかに25点が徳川美術館の館外初出展となります。

博物館のある関市は、室町時代に日本最大規模の刀剣産地を形成し、東海地方の武将が全国制覇する中で、多くの美濃の刀が用いられ、その後、全国へ伝播しました。美濃刀は、切れ味のよさや使い勝手が高く評価される一方で、その価値は見過ごされがちです。本展で展示される尾張徳川家ゆかりの美濃刀は、将軍家をはじめとする出緒米歴を伴う歴史的価値のある優品揃いで、美濃刀の魅力を再発見するまたとない機会となることが期待されます。開館50周年を前に、知られ

ざる徳川家ゆかりの美濃刀コレクションは、岐阜の地でこそ公開の意義があるといえるでしょう。



▲展示会場

また、下記のとおり、会期中、さまざまな関連催事(講演会以外は、要入館券・材料費)を開催いたします。併せてご参加ください。

4月29日(水祝) 講演会「徳川美術館の刀剣コレクション」(講師 徳川美術館・安藤香織学芸員)

5月4日(月祝) 「銘切実演」(企画 うおかね商店)

6月7日(日) 「かっこよく撮る! 刀剣撮影ワークショップ」

6月14日(日) 「職人の極意伝授! 柄巻きワークショップ」

6月20日(土) 「土岐高山城戦国武将隊グリーティング」

6月21日(日) 「目釘抜きをつくる!」

6月27日(上) 「五寸釘ペーパーナイフ」(企画 うおかね商店)

本展開場式では、初めて参加希望者の公募を実施するとともに、友の会会員の皆さんにも広く参加を呼びかけ、多くの方にご出席いただきました。会期中の毎日、先着10名様にポストカードを、アンケートのフォーム回答者に壁紙をプレゼントしています。ぜひ来場・鑑賞ください。



▲開場式で 江崎禎英知事

▲同 徳川美術館 徳川義崇 館長



▲開場式 テープカット

▲開場式 ギャラリートーク



▲4月29日 講演会

▲「ぬい撮り」コーナー

岐阜県博物館サテライト展示
岐阜県博物館・岐阜大学連携企画

「ロードキル問題を考える—動物と車にやさしい社会を目指して—」

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

道路上で発生する車に関係する動物の死亡事故を「ロードキル」と言います。動物の生息域に道路がつくられたことが主な発生原因です。日本の自動車保有台数は、令和7年には約8,000万を超え、60年前の約10倍になります。戦後の日本は自動車産業の発展とともに便利な社会になりましたが、その陰で多くの動物が犠牲になっています。野生動物との衝突事故は自動車や運転手にも損害がでます。北海道では、高速道路を走行中の運転手が、飛び出したキツネを避けようとハンドルを切り、後続車に追突され死亡しています。岐阜県では、夜間運転中の運転手が9頭のイノシシの群れに次々と衝突し、大けがを負い、自動車も大破しています。

今回のサテライト展示では、タヌキ、ネコ、アマミノクロウサギなど、ロードキルに遭遇しやすい動物の剥製や頭骨標本を展示し、あわせて岐阜大学の研究成果を紹介します。お近くの商業施設で開催の折はぜひお越しください。

開催日程 (予定)

カラフルタウン 4月28日(火)～5月12日(木)

イオンモール各務原インター

5月28日(木)～6月18日(木)

マーサ 7月18日(土)～8月23日(月)

モレラ岐阜 未定

マーゴ 未定



▲ロードキルで数を減らしているツシマヤマネコ

マイミュージアムギャラリー展示

第2回「写真展ぎふたび—Side B—」

第3回「大量出土!?!飛騨宮川の石棒」

第4回「熱虫!夢虫!!本・グッズ

漫画コレクション!!」

岐阜県博物館 学芸部 佐藤 裕泰

令和8年度の第2回目は、写真展ぎふたび事務局の亀山多加代さんらによる「写真展ぎふたび—Side B—」を開催します。亀山さんの代表作である「月と岐阜城」の写真をはじめとし、県内各地の魅力が詰まった写真を多数展示いたします。岐阜を愛する写真家たちが、写真で岐阜の物語を紡ぐ素敵な空間に、皆様ぜひ足をお運びください。

期間：令和8年5月30日(上)～6月28日(日)



続いて、第3回目は、飛騨みやがわ考古民俗館による「大量出土!?!飛騨宮川の石棒」を開催します。縄文時代の人びとが祈りや願いを託して製作したと考えられる「石棒」をはじめ、縄文土器や石棒の製作道具を展示いたします。また、飛騨みやがわ考古民俗館や石棒クラブによる、文化財を身近に伝える取り組みも紹介いたします。縄文時代と現代、時代を超えて石棒と向き合う人びとの思いに触れてください。

期間：令和8年7月18日(土)～8月16日(日)



最後に、第4回目は、林真司さんによる「熱虫!夢虫!!本・グッズ 漫画コレクション」を開催します。この展示は、令和7年度の百年公園の停電に伴う休館の影響で、令和8年度に延期されたものです。手塚治虫に関連する書籍や日用雑貨など、虫プロ時代のグッズ3500点余りを展示いたします。ご来場いただき、あの頃の昭和文化をお楽しみください。

期間：令和8年9月5日(土)～10月4日(日)



令和8年度夏季企画展のご案内

「絵本太閤記×錦絵

と き —時代をかける秀吉—

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜

豊臣秀吉の生涯を描いた読本である「絵本太閤記」は、寛政9年(1797)に大坂の版元から武内確斎作・岡田玉山画により出版され、享和2年(1802)までに全7編84冊が刊行されました。本書は、簡潔な文章と文字通り多くの挿絵を掲載しており、大衆に広く受け入れられ、絶大の人気を博しました。その後の錦絵・歌舞伎・人形浄瑠璃などにも大きな影響を与えています。

本展覧会では、江戸時代のベストセラーといえる「絵本太閤記」をとりあげ、岐阜県博物館が開館50年の歩みの中で収集してきた錦絵とあわせてご紹介します。

江戸時代の人々を魅了した「絵本太閤記」の世界をぜひお楽しみください。

1 展覧会案内

会 期：令和8年7月11日(上)～8月23日(日)
開館時間：9：00～16：30 ※入館は16：00まで
休 館 日：月曜日
7/20(月・祝)は開館、7/21(火)休館
主 催：岐阜県博物館

2 会場

岐阜県博物館 本館4階 特別展示室

3 関連事業

(1) 講演会

「『絵本太閤記』の世界—江戸時代に活きた秀吉—」

講師：竹内洪介氏(就実大学人文科学部講師)

日時：令和8年8月9日(日)13：30～15：00

定員：120名

場所：岐阜県博物館 けんぱくホール

(2) けんぱく教室

「絵本太閤記を読む」

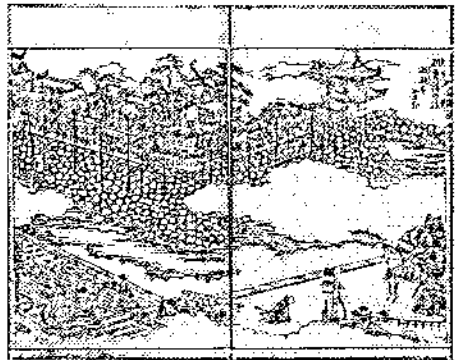
日時：〈第1回〉令和8年7月12日(日)

〈第2回〉令和8年7月26日(日)

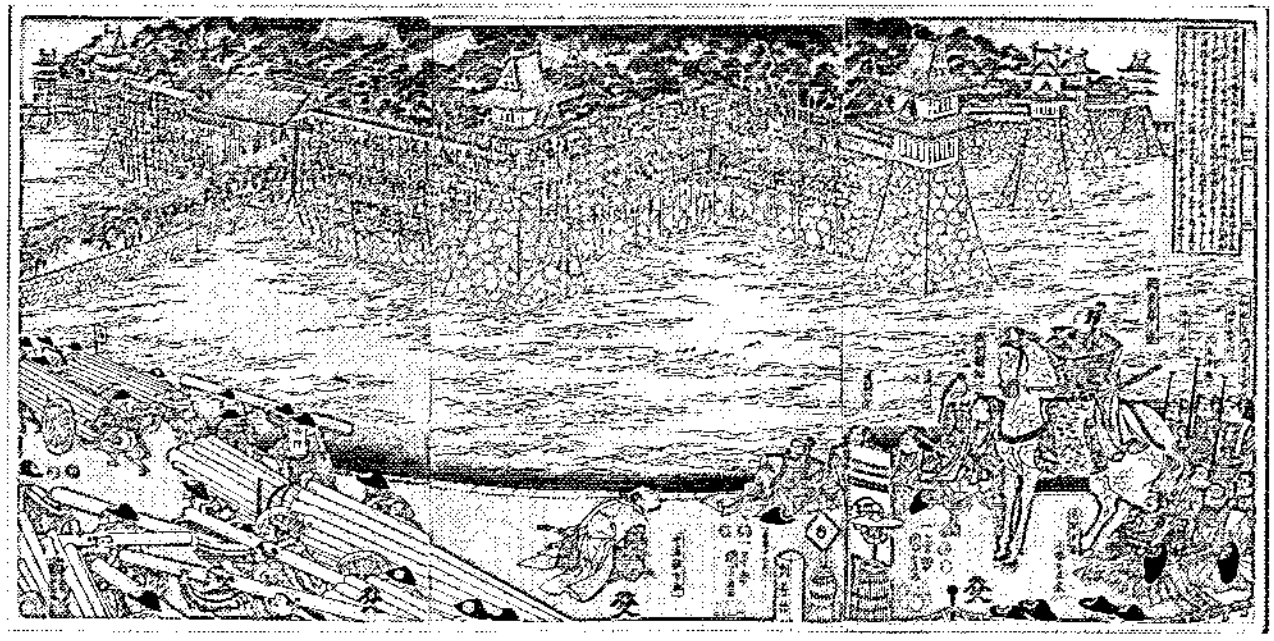
〈第3回〉令和8年8月16日(日)

定員：各30名

場所：岐阜県博物館 講堂



▲絵本太閤記 挿絵



▲歌川国芳 大多春永城堀修復の図(当館蔵)

「家から通える大学に」という家の方針で、私は岐阜大学教育学部生物学科に入学した。

私が志した分野は、野外で観察し、写真を撮り、必要に応じて採集し、標本にしてさらに観察する。ところが、ここで困ったことが起きた。もっと学ぼうと一人で行こうとすると「若い女の子が一人で野外に行くのは危ない」と親が猛反対。大学の授業は仕方ないし、指導者と同行する複数の人がいるからOKとのこと。そこで、状況がよく似ている岐阜県博物館が催す自然観察会の説明をし、許可を得た。連載の1回目にあるように、博物館に通い続けているうちに知り合いになった先生方もいらっちゃって、家でその方々の話をしてきたことも、信頼を得られた理由だったと思う。

自然観察会では、初めのうちは先生のすぐ後ろにいて、植物などを見、メモを取るのに一生懸命だった。帰宅後、取ったメモの内容を、図鑑で確認する。博物館の裏山「自然観察の小道」や「百年公園の植物」での観察は、回を重ね分かるようになってきた。そうすると先生のすぐ傍ではなく、列の真ん中や後ろにいて、先頭にいらっしゃる先生の声が届かなかった場合にお伝えするようになった。先生も回数重ねての参加と、大学で専攻し正しい知識を得ていることから、「伝達役」として認めてくださっていた。

昭和56年夏、特別展「御岳山は生きている」が開催、それに合わせて8月2日に御岳山自然休養林での自然観察会が行われた。この年の7月、大学の実習で御岳山に登り、高橋弘教授と、当時の富田学園の成瀬先生、そして博物館の小野木先生から植物の指導を受けていた。小野木先生とは、高校生で博物館に通い始めた頃に、「あんた、よく来ているね。博物館好きか?」と、声をかけられたことからお話するようになった。大学生になってからは「大学でも習ったやる?やってみるか」と、植物標本作成の手伝いもするようになった。

博物館の御岳山自然観察会を催すにあたり、小野木先生と成瀬先生が事前の下見に行かれる際も、声をかけていただき、ご一緒した。昭和56年は、大学の实習・下見・本番の観察会と、3回御岳山に出かけた。また7月8日と連続して同じ場所を観察できたことで、見所や観察ポイントを理解・記憶することができた。博物館主催の観察会は私には3回目、長い列の先頭小野

木先生、後ろ成瀬先生。真ん中あたりに居て、どちらからの声も聞き取りにくい場合に、先生方が説明し見せた内容をリピートしてお伝えした。お二人からの説明で、おっしゃったこと以外の情報は伝えず、質問にはお二人から聞いて分かる範囲で答え、難しい場合は直接先生に尋ねるよう声をかけた。「先生方が言ってらっしゃることが聞き取りにくいことがあったけれど、分かってよかった」と言われてうれしかったことを覚えている。

「指導者より出過ぎず、でも不足がないように。何より、参加してよかったと思ってもらえるよう、お手伝いをする」これが、一介の観覧者から催しのお手伝いをするまでになった、私の心得である。

昭和57年は8月1日には、白川村大窪で、昭和58年7月23・24日高鷲村蛭ヶ野で実施。この頃から、1泊での観察会が行われるようになった。

また、57年には「フレンドの会」という、友の会の前身に当たる会の募集が始まった。もちろん参加。8月8日に発足式が行われた。この会は翌58年5月29日に行われた総会で「発展的解消をし、名称を『友の会』と改める」と決定。昭和58年10月23日に、「友の会設立総会」が行われた。当時の会員数は115名と、自分のメモに残っている。

その後、私自身は教職に就き、夏休みは日直・プール当番・研修等で忙しくなり、夏の観察会に参加しにくくなっていった。けれど、仕事がない休日には博物館を訪れ、植物の標本作りや収蔵庫の棚に納めることを続けていた。



▲昭和56年御岳山自然観察会

はなしょうぶ 刀剣と花菖蒲

岐阜県博物館 友の会 興 英樹

「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」で展示された「短刀 無名 志津」が前田家から2代将軍秀忠、3代将軍家光が所持の後、尾張家初代義直に下贈・・・という内容のことが書かれていたのを読み、剣状葉の花しょうぶ(花菖蒲)が徳川家康・秀忠・家光が広めていったことと将軍が同じであり、幕府創設期であることから関係があるのではと思い、調べましたら意外なことがわかりました。

20年以上前になりますが、教員仲間と柳生家の菩提寺の芳徳寺に予約を取ってお盆に訪問、和尚さんにお会いできず残念だったのですが、お参りをし、柳生兵法と禅の結びつきが最も濃い場所を散策したことが懐かしく思い出されます。柳生宗矩は家康・秀忠・家光三代に仕え、将軍家兵法指南役として新陰流を“天下統一の剣”へと広めていきます。それは家光が剣の上達に悩み、宗矩に心の持ち方などを求めたことが『兵法家伝書』成立の直接の切っ掛けとなったといわれます。『兵法家伝書』の核心には、宗矩が親交のあった禅僧・沢庵宗彭の思想が流れて、剣は人を殺すための剣ではなく、人を生かし、秩序を守る剣、「活人剣」として武の精神を、平和のために再構築されたものでした。

一方、花しょうぶは、剣状葉で、しかも花でしょうぶ(勝負)ともとれ、家康、秀忠、家光と3代将軍が大切に育てたということもあり、各大名の庭園には植えられました。

花しょうぶは、2023年NHK連続テレビ小説『らんまん』のモデル牧野富太郎博士によって命名された植物です。花しょうぶは、ノハナショウブの園芸種であり、6月ごろに花を咲かせます。花しょうぶを育てているの感想ですが、スケールが大きいところで雨上がりの朝が一番美しいと思います。花の形(花容)は、「平咲き」の「江戸系」、花被がしだれるような優雅な「伊勢系」、武士道を重んじて厳格に育成された「肥後系」、細めの、野性味の残る「長井系」に分類されますが、花の形は何となくわかって、名前の多さにびっくりするとともに区別など難しいです。将軍や大名などはどのように鑑賞されたのでしょうか。

最後に、徳川家康、秀忠、家光は、花しょうぶなど好きであったかもしれないが、次第に幕政に生かすために、品種改良や栽培を通じて多くの優れた品種を生み出し、戦乱→太平の象徴として園芸文化を発展させました。このことと柳生宗矩が「兵法家伝書」書き上げ、刀剣が戦うための道具ではなしに心の在り方や武道の取り組みなど「活人剣」として完成させていくという現象は関係がないように思えるのですが、江戸幕府が求めた武士像と完全に一致するのでしょうか。刀が武士の象徴として扱われていくとともに、美術品としても受け入れられる社会が続いたのでしょうか。



新オペラ貞奴が新たに描くもの③

～ベルリン1901.11.17～

創作オペラ「貞奴」プロジェクト事務局長 藤田 敦子
岐阜県博物館友の会

本稿も第3回となった。今回のテーマは、川上音二郎・貞奴の一座がベルリンを訪れたときのエピソードである。

1901年11月17日に、ドイツのベルリンに到着した川上夫妻と一座数名が、月刊誌「東亜」(Ost-Asien)を主宰するジャーナリストで、ベルリンの私設公使とも呼ばれた在留日本人の世話役、玉井喜作(1866-1906)の家を訪れる。玉井は、若くして札幌農学校(現北海道大学)のドイツ語教授を3年で辞め、1年以上かけてシベリアを横断してドイツに渡った傑物である。ドイツの新聞に日本やアジアの記事を書き、逆に日本にドイツにおける日本についての言論などを寄稿した。「東亜」は日独両国で発行され、どちらの国の企業の広告も掲載し、日独の貿易や交流に貢献していた。この玉井邸には、様々な日本人が訪れ、新渡戸稲造、美濃部達吉、後藤新平、鈴木貫太郎などの名も残されている。

さて、1901年11月17日には、玉井が日本を出発して9年となる記念の集まりがあり、音二郎や貞奴らの署名が入った寄書が遺されている。この寄書には、日本の児童文学の父ともいわれる巖谷小波(1870-1933)が冒頭に漢詩らしきものを書いている。巖谷は明治期に児童文芸作品を表す言葉として「お伽話」を使い、「桃太郎」や「金太郎」「花咲爺」などを子ども向けに再生した人物で、1901年当時、ベルリンの東洋語学校で日本語を教えていた。

この寄書で、巖谷の次に署名しているのが貞奴であり、3番目が音二郎である。音二郎と貞奴は、帰国後の1903年にシェークスピアの「オセロ」や「ハムレット」を上演しているが、その間に、この巖谷や久留島武彦(日本のアンデルセンとも称される児童文学者)らとともに御伽芝居を始めた。特に貞奴主演の「浮かれ胡弓」は全国的に人気を博し、岐阜でも上演記録がある。現代に続く子ども対象の演劇の萌芽が、このベルリンでの出会いにあるように思われるのである。

今年8月30日に各務原市のプリニーの市民会館で初演する「新オペラ貞奴ーすべては誠をもってー」では、川上一座の欧米巡業を象徴するシーンとして、かの有名なパリ万博での成功ではなく、このベルリン・玉井邸での集まりを取り上げることとした。ぜひご覧いただきたい。公演情報は右記の読取コードから。



▲玉井喜作(左)と巖谷小波(右)(Wikipediaより)

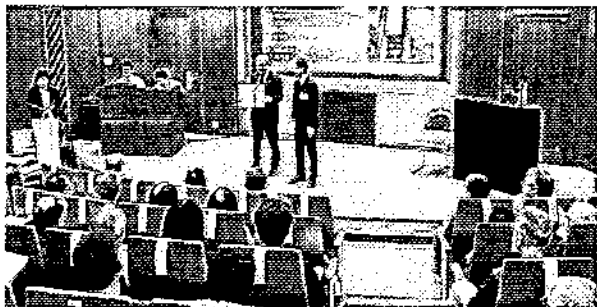


▲「新オペラ貞奴ーすべては誠をもってー」公演情報

博物館50周年の感謝を込めて

2026年5月5日に岐阜県博物館は50周年を迎えました。50周年というこの日を迎えることができたのは、友の会の皆様をはじめ、多くの方々に岐阜県博物館を支えていただいたからです。

長い間、支えていただいたことへの感謝を少しでも伝えたいという思いから、5月5日の開館50周年記念特別講演会に先立って記念式典がけんぱくホールで行われました。



▲記念式典の様子

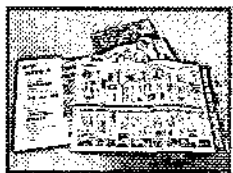
記念式典では、これまで博物館の活動に尽力していただいた友の会、サポーターの方々を顕彰するとともに、博物館50年の歩みを振り返りました。

当時の写真やエピソードを交えながら、博物館50年の歩みを辿ることができました。開館直後の博物館の様子、展覧会ごとにさまざまな展示物が準備され、多くの方を魅了していく様子、博物館での活動を通して、人と人がつながっていく様子など、当時の記憶を思い出し、懐かしさに浸ることのできる記念式典となりました。

岐阜県博物館はこれからも友の会の皆様とともに、岐阜県の自然、文化、歴史の魅力を伝える博物館として、歩み続けていきたいと思っております。これからもよろしくお願い申し上げます。

なお、博物館HPに「開館50周年(令和8年)ロゴ・年表」を掲載しています。ぜひご覧ください。

また、『月間ぶらざ5・6月号』に博物館50周年記念特集を掲載していただきました。



岐阜県博物館からのお知らせ

○令和8年度がスタートしました



今年度着任の5名の新職員です。皆さまに岐阜県の自然・文化・歴史により親しみ、誇りを持っていただけるよう務めます。よろしくお願いします。
★博物館催事の申し込みについて

博物館の講演会や事前申し込みの必要な催事のお申し込みは開催日1か月前の同日です。すぐに満席となるものもございますので、早めにお申し込みください。

また、キャンセルされる場合は必ずお知らせください。

友の会事務局からのお知らせ

★令和8年度友の会の主な活動

- 会 議 ・10月22日(木)秋季理事会
・3月18日(木)会長・副会長会議
- 監 査 ・5月16日(土)
- 委員会 ・会報委員会 4月9日(木)
・探訪の旅委員会 随時
- 友の会報 3回発行
・146号(6月)、147号(10月)、148号(2月)
- 博物館との共催事業
・けんぱく教室、わくわく体験
・「七草がゆを食べよう」は今年度も開催しません。
- 探訪の旅
・日帰り探訪の旅：小瀬鶴飼い見学
7月中旬実施予定
・宿泊探訪の旅：松江・出雲・境港方面で計画中
12月1日(火)～12月3日(木)2泊3日。
8月頃にご案内予定です。

★ミュージアムショップでは、50周年記念特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」開催期間中、刀剣関連グッズとして、伝統屋 様の玉鋼アクセサリー、徳川美術館の図録・グッズ、うおかね商店の刀剣関連グッズの取り扱いをしています。ご覧の上お買い求めいただくと幸いです。

★友の会報への会員のみなさまの投稿をお待ちしています。